令和5年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
榎　諒子 （理科主任）	校長:倉橋誠一　教頭:武知一誠 教務･3学年主任･数学主任:堀岡暁美　研修主任:大島浩代 2学年主任:長楽真裕美　1学年主任･生徒指導:竹内正行

校長

倉橋　誠一　印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

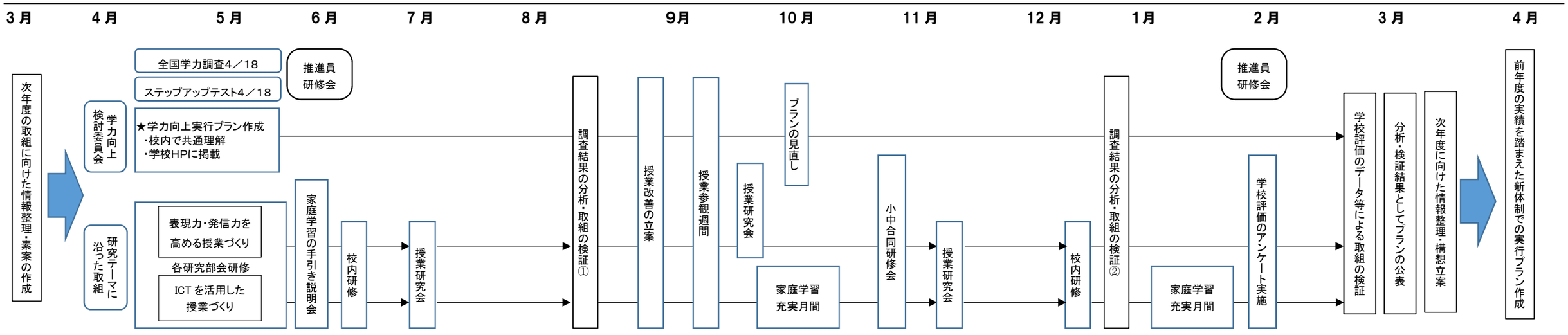
（1）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて授業に取り組むことができる。忘れ物をする生徒も少ない。 ●家庭学習や授業後の復習ができない生徒が多いため、授業中に理解できた内容が定着していない。	・自ら課題を設定したり、仲間と協働したりしながら、解決や探究に取り組むことができる。 ・持ち帰り端末や自主学習ノート等を利用して反復練習し、知識技能を身に付けることができる。 ・読書を通して、言語活動の基礎となる文章表現を学び、日常生活の中で活用できる。	・発問を工夫するなど、授業改善に取り組む。 ・休み時間や放課後等に「質問教室」を開催することで、生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・復習し、学力定着を促進させるため、月１回程度セミナーテストを実施する。 ・学級文庫を充実させ、読書環境を整える。	･各自の学びに合わせた繰り返し学習の時間を確保するため、個別ドリルアプリのドリルパークを朝学習の時間などに取り入れる。 ･期末テストや実力テスト終了後など必要に応じて個別に声かけをし、生徒が質問しやすい場をつくる。	･毎週金曜日をドリルパークの日に設定し、また、授業の３分前にドリルパークを行うなど触れる機会が増えた。 ･質問教室を常に開設しており、多くの生徒が参加している。 ・定期的にセミナーテストを行い、復習することで学力を定着することができた。	･朝学習にドリルパークを取り入れる日を増やし、継続的に学習する時間を確保することで、知識技能を身につけさせる。 ・図書室の環境が整っているので、興味のある本を取り入れ、学級文庫を充実させる。

（2）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話し合い活動で意見交換を活発にすることができる。聞く態度が身についている。 ●記述式の問題を苦手とする生徒が多い。必要な情報を取捨選択して自分の考えをまとめることのできる生徒が少ない。	・タブレットを活用し、必要な資料を集めたり、関連する情報を集めたりして考えを比較し、整理し、自分の考えをまとめることができる。 ・記述式の問題に対して、伝えたいことや考えを整理して分かりやすく書くことができる。	・発問を工夫し、生徒が主体的に考え、判断し、表現するような授業づくりに取り組む。 ・プレゼンテーション等をする機会を設け、調べたり、自分の考えをまとめ発表したりする時間を増やす。 ・授業や定期テストで記述式の問題に慣れさせる。	･授業参観週間を１ヶ月間に延長し、小中一貫校ならではの取組として、他校種の授業づくりからも学び、生徒たちが取り組みたくなる課題の設定や発表の機会の充実を図る。 ・プレゼンテーションに評価をつけ、プレゼン力を身に付けさせる。	･全学年、毎週火曜日を新聞の日と決め、読んで感想を書くことを継続した。伝えたいことや感想を短い文章で書くことができた。 ・プレゼンやポスターづくりを通して、自分の考えを表現する力がついた。	・全学年、年に１～２回、アメリカやカナダの歴代の ALT やブラジルの高校生とのオンライン交流を行い、表現力の向上に努める。 ・各教科でプレゼンづくりを取り入れ、評価する機会を増やす。

（3）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○英語検定に対する向上心をもつ生徒が増えた。 ○学力を高めるために自ら課題を見つけて取り組める生徒が増えた。 ●テスト前における家庭学習の時間にばらつきが見られる。	・英語検定の受験率 80%以上である。 ･自分の課題を自ら見つけ、目標を定め、計画や見通しを立てて学習等に取り組むことができる。 ・自分に合った学習計画や学習の仕方を工夫することができる。	・昼休みや放課後に、英検対策教室を設ける。 ・ＩＣＴ等を活用し、生徒個々のレベルに応じた教材に取り組ませる。 ・エラーズノートを活用することで、課題を明確にし、生徒が自ら主体的に学習できるように支援する。	・生徒の「なぜ」にこたえ、見通しを示し、持続可能な学習計画を主体的に立てさせるために、教職員が一丸となって指導を徹底する。 ・タブレット教材（ドリルパークなど）の定期的な活用を徹底し、学習意欲の向上につなげる。	・英検３級の受検率８０％以上を達成できた。 ・定期テストに向けての家庭学習時間を記録、比較をすると、全学年において、家庭学習時間が増えた。 ・テストに向けて、計画と目標点を設定し、目標達成への取組ができた。	･AI を使い、勉強のやり方を各自の能力に合わせて、学習できるようにする。 ・英検対策教室を継続するとともに、自ら進んで英検を受けようとする意識を高める。

令和5年度　学力向上ロードマップ